

## ○ 東京都指定無形民俗文化財（風俗慣習）

### 世田谷のボロ市

保存団体 せたがやボロ市保存会

世田谷のボロ市は、世田谷代官屋敷前の通りを中心として開催される年末年始の行事で、その起源は、後北条氏の開いた宿駅集落である世田谷新宿(現、世田谷1丁目)に発達した定期市に遡るとされます。当時は、天正6年(1578)の北条氏政より出された掟書に記されているように、月6回の市立てをする六斎市で、楽市でした。



北条氏 掟書

江戸時代になると六斎市は、年1回の歳の市になりました。この市は、「市町」と呼ばれ12月15日に世田谷新宿の上町と下町とで隔年に場所を変え催されました。

明治時代初め、出店が多くなるにつれて上町・下町同時に市が立つようにもなりましたが、明治時代終わりごろから次第に上町の方が賑わいをみせ、その後の道路拡張、交通量の増加等の出店場所の変化によって、戦後は上町が中心となっています。また、明治6年の新暦移行後は、旧暦の年末にあたる新暦1月15日にも正月市が開催されるようになり、その後、明治時代中頃から、今日のように毎年12月15・16日と1月15・16日に市が開催されるようになりました。

ボロ市の名は、明治時代中頃、古着が野良着用に、ボロが草履の補強用などに盛んに販売され、次第に商品に占める古着・ボロの割合が多くなり、「市町」が「ボロ市」と呼ばれるようになったものです。その後は、沢庵漬生産に用いられる筵が主力商品となり、周辺地域が住宅地化していくと、植木を扱う店が多くなり、さらに日用品を売る店も増えています。

平成17年度の営業品目は、日用品・雑貨、古物(着物)、骨董・美術、食品、園芸、古道具などで、他に白・杵・竹製品、神棚・神具などがあります。古物(着物)のほかに、骨董・美術、古道具を扱う

店が多くなっていますが、身近な日用品・雑貨の店が多数を占めています。

保存団体の「せたがやボロ市保存会」は、昭和39年に地元町会・商店会を中心に結成された「世田谷ボロ市推進委員会」を母体として、平成5年に結成されたものです。

現在のボロ市は、毎年12月15・16日と1月15・16日に世田谷代官屋敷前のボロ市通り約500mとその周辺範囲で行われます。世田谷ボロ市保存会は、出店者の募集と受付、仮設電気の設営、出店場所の地割などの準備作業から、当日の運営、終了後の撤収作業までを町会、地元商店会、小・中学校、PTA、事業所など約20の支援団体と区役所、警察、消防の協力を得て実施しています。平成18年度のボロ市来場者は、12月15日が19万人、同16日が22万人、1月15日が18万人、同16日が16万人の合計75万人です(世田谷区調べ)。

世田谷のボロ市は、中世末期の楽市を起源とする都内最古級の季節市です。楽市を起源とする市が、江戸時代以降は、地元の日常生活と結びついた季節市となり、現在も、「せたがやボロ市保存会」によって世田谷代官屋敷前の通りを中心として継承・開催されています。日常生活にかかわる品々が販売されて、地元の人々のほか、多くの人々が集う場所として、歴史的な背景の中に生活を実感させる市です。

由来、内容等において都民の生活文化を示すものとして重要です。



ボロ市の情景 (2006年12月15日)